独立警備歩兵第七十五大隊略歴

陸軍大尉　堺原元市

年月日	概要
昭二〇、五、一〇	昭和二十年軍令陸甲第十八号に依り編成下令
五、三〇	河南省鄧県に於て編成完結
	編成完結時の総人員
	陸軍大尉　堺　元市　以下六百四十五名
自　六、一八	
至　六、二六	河南省鄧県九重堰附近の警備
自　六、二七	
至　八、二八	河南省鄧県海凸九重堰林和直附近の警備
自　六、二七	
至　八、三	湖北省呂鄭駅附近の戦斗に参加
八、一四	停戦詔書発布
八、二五	復員下令
八、二八	河南省許昌県へ集結の為河南省鄧県海凸出発
九、一二	河南省許昌県周店集結完了
二一、四、二〇	内地帰還の為河南省許昌県出発

2240

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、二四　上海到着
四、三〇　上海出帆
五、九　佐世保上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立警備歩兵第七十大大隊略歴

陸軍大尉　小岡義三

年月日	概要
昭二〇、二、一	軍令陸甲第十八号により編成下令
五、三〇	編成完結
自六、一	鄧県附近の警備
至六、二七	
自六、二八	呂堰駅附近の討伐
至七、三	
六、三〇	天津よりの現地応召兵二一〇名入隊
自七、四	崔吳家営附近の警備
至八、一六	
八、一四	停戦詔書発布
八、一七	許昌集結のため崔吳家営出発
八、二三	復員下令
九、一三	許昌集結完了
二一、五、二四	上海港出帆
五、三一	博多港到着

2242

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

22 内 比文6

歴代部隊長　一代　陸軍大尉　小岡義三

兵力　総員　八六八名

入院　四五名　転属　八五名

死歿　二七名　現地除隊　二二名

生死不明　四名　残留（所在不明）　四名

内地帰還　六七八名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立警備歩兵第七十七大隊略歴

陸軍大尉　鈴木利三郎

年月日	概要
昭二〇、五、一〇	軍令陸甲第十八号に拠り編成下令
五、三〇	編成完結
	大隊長　陸軍大尉　鈴木利三郎
	編成の概要
	基幹部隊　独立歩兵第二十六大隊より建制一ケ中隊
	独立歩兵第二十九大隊より建制二ケ中隊
	差出部隊　第百十五師団教育隊
	機動歩兵第三聯隊
	其の他　総員　八三〇名
自五、三〇	
至八、二四	湖北省光化県老河口附近の警備
六、三〇	天津より現地応召兵七三名入隊
八、一四	停戦詔書発布
八、二五	復員下令
	許昌へ集結のため光化県出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

九、一〇　許昌集結完了

二一、四、二二　内地帰還のため許昌出発

四、二七　上海到着

五、四　上海出帆

五、一〇　博多港上陸

復員時に於ける人員概況

総員　九〇三

除隊召集解除

現地　三三

内地　七二七

死亡　二四

入院　五五

転属　六一

生死不明　二

残留（所在不明）　一

五　二日市復員本部に於て復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立警備歩兵第七十八大隊略歴

陸軍大尉　青木弘寿

年月日	概要
昭二〇、五、一〇	軍令陸甲第十八号に依り編制着手 第百十四師団独立歩兵第百九十九大隊、第二百大隊より建制充当として三ケ中隊配当され他は各個充当に依り充足し
五、三〇	編制完結す　その編成左の如し 本部　副官　中尉　合月利一　以下二八名 第一中隊　中隊長　〃　丸山為車　以下一〇六名 第二中隊　〃　〃　池部範夫　以下一〇四名 第三中隊　〃　〃　田口博　以下一〇七名 第四中隊　〃　〃　柳沢信平　以下一〇七名 第五中隊　〃　少尉　後藤英三郎　以下一〇七名 銃砲隊　隊長　〃　水野茂　以下七五名
自六、八　至六、二八	河南省新野県附近の警備
自六、二九　至八、二八	河南省鄧県附近の警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自 大、二九	湖北省大山廟附近の戦斗
至 七、三	
六、三〇	現地応召兵天津より一九〇名入隊
八、一四	停戦詔書発布
八、二九	河南省許昌県集結のため河南省鄧県出発
八、二五	復員下令
九、一一	河南省許昌県集結完了
二一、四、二〇	内地帰還のため許昌県出発
四、二四	上海到着
四、三〇	上海出帆
五、九	佐世保港碇上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第八十五旅団工兵隊略歴

陸軍大尉　遠藤貞郎

年月日	概要
昭一九、二、九	第十野戦補充隊工兵隊編成下令せらる
二、一八	工兵第九聯隊に於て編成完結す
	編成左の如し
	第十野戦補充隊工兵隊本部
	第十野戦補充隊工兵中隊
	補第十野戦補充隊工兵隊長　陸軍大尉　遠藤貞郎
	満州牡丹江附近の警備
二、二八	中国派遣のため牡丹江出発
三、一九	湖北省応城県長江埠に到着
	同地附近の警備
二〇、三、二〇	昭和二十年軍令甲第十八号に依り独立混成第八十五旅団工兵隊編成下令
	同日完結
	編成及駐屯地左の如し
	独立混成第八十五旅団工兵隊本部　湖北省長江埠
	独立混成第八十五旅団工兵隊第一中隊　湖北省長江埠

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第八十五旅団工兵隊第二中隊　湖北省長江埠
補充立混成第八十五旅団工兵隊長　陸軍大尉　遠藤貞郎
陸軍中尉小瀬俊次以下六名本土兵備要員として内地部隊に転属す

六、九　停戦詔書発布
八、一四　復員下令
八、二五　停戦協定締結
九、二　第六戦区第四日本官兵管理所に収容
一〇、一一　内地帰還のため湖北省応城県長江埠出発
上海に集結す
上海港出帆
佐世保港上陸

除隊召解人員　二九三名
補充以降の死殁者　一三名
生死不明者
本土兵備要員　六名
入院退者（復員完結時）一三名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十四独立警備隊作業隊

陸軍大尉　増田一郎

年月日	概要
昭二〇、二、一	軍令陸甲第十八号に依り編成下令
五、三〇	編成完結
自 六、一 至 八、一四	北支河南省鄧県附近の警備
自 六、二八 至 七、三	北支河南省呂郟駅附近の討伐
六、三〇	天津よりの現地応召兵二十七名入隊
八、一四	停戦詔書発布
八、二三	許昌集結のため河南省鄧県出発
八、二五	復員下令
九、一六	北支河南省許昌集結完了
二一、四、二六	内地帰還のため許昌出発
五、二	上海集結完了
五、二三	上海港乗船出帆
五、二七	博多港到着

2250

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五・二九

博多上陸

復員式挙行

部隊長　陸軍大尉　鴨田一郎　以下一大二名博多に於て召集解除（除隊）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十独立警備隊野戦重砲兵第大隊略歴

陸軍大佐　村上尚武

年月日	概要
明二一、四、一六	赤間関へ山口県下関一重砲隊として補隊
四〇、五、二〇	下関重砲兵聯隊と改称
大七、八、三〇	野戦重砲兵第大聯隊として改編
一四、七、一五	下関より小倉へ転営
昭一二、七、一七	動員下令
八、一二	大陸派遣の為門司出帆
自八、一九	北京駐屯
至九、一二	
自九、一三	河北省及山西省作戦参加
至一九、二、二〇	
自二、二一	河南省作戦参加
至二〇、八、一五	
八、一五	河南省鄧県柳集附近に於て終戦の大詔拝受
一〇、二五	河南省鄭県站馬屯集中
二一、三、二八	帰国の為河南省鄭県出発

2252

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、三一　上海乗中
四、五　上海出帆
四、一二　田辺港上陸
復員式終了　一、五〇大名
五、一　福岡県二日市ニ於テ復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立山砲兵第一大隊（仁第一四八五部隊）略歴

陸軍少佐　佐々木典吾

年月日	概要
自昭一九、三、一五	部隊長官　陸軍中佐　中島政次
至二〇、四、一六	
自　四、一六	陸軍少佐　佐々木典吾
至二一、	
一九、二、一五	編成下令（昭和十九年軍令陸甲第十一号）
二、一五	編成完結
	編成地　中華民国河北省石門
	編成完結の状況
	編成管理官　第百十師団長　陸軍中将　林芳太郎
	編成担任官　北支那砲兵下士官候補者隊長　陸軍中佐　新田正義
	編成要員は主として左記部隊の差出に拠る
	北支那砲兵下士官候補者隊
	山砲兵第二十九聯隊
	野砲兵第五十六聯隊
	野戦重砲兵第五聯隊補充隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北京兵事部（現地召集者）	
部隊行動の概要	
自 四、一九	
至 五、二四	河南作戦参加
自 五、二五	
至 六、一六	豫宝地区会戦参加
自 六、一七	
至 七、一六	西部河南省戡定作戦参加
自 七、一八	
至 二〇、三、一二	河南省洛陽県竜門街附近の警備
自 三、一三	
至 七、二〇	豫鄂作戦参加
自 八、一五	
至 二一、三、二七	河南省鄭州に集結ノ復員準備
四、九	上海出帆
四、一五	佐世保上陸
四、一六	復員式完了
兵力	
編成当時	一二一七名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	復員人員　一〇六三名 終戦以来の死歿者　一〇四名 生死不明者　一五名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立速射砲第四十三中隊略歴

陸軍大尉　河合弥治兵衛

年月日	概要
四二、三、一五	於河南省鄭州漯河路　編成完結
自　三、一五 至　六、三〇	豫鄂作戦に参加
自　七、一 至　八、一四	河南省鄧県張村附近の警備
二一、三、二八	終戦と共に河南省鄭州集結　第十独立警備隊の復員管理下に入る
四、二	内地帰還のため河南省鄭州発
四、一〇	上海着
四、一六	上海出帆
	博多港上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

野戦機関砲第八十二中隊歴史

中隊長　西田武雄

年月日	概要
昭二〇、二、一	軍令陸甲第十八号に基き中華民国河南省鄭州に於て野戦機関砲第八十二中隊編成着手
三、一五	編成完結
	第百十五師団に配属
四、五	羅山県駐馬店に駐屯（警備）　一個小隊を以て同県吳程河橋梁警備
同地区に於て第十三独立混成第九十二旅団配属	
六、二〇	同地区に於て第十三独立警備隊に配属
八、一四	停戦詔書発布
八、二五	復員下令
九、二	停戦協定締結
一一、一	河南省鄭県鄭州に於て第十独立警備隊に配属
二一、四、一〇	上海乗船
四、一六	博多港上陸
	七〇名現役除隊及召集解除

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

野戦機関砲第八十三中隊略歴

陸軍中尉　川上興作

年月日	概要
昭一九、三、一五	霸王城に於て編成完結
	同時に野戦高射砲第七十四大隊長森中少佐の指揮下に配属せらる
	中隊長以下七十八名（将校三名、下士官以下七十五名）
自　三、一五	霸王城に位置し黄河橋梁の防空に任す
至　八、一四	
一九、四、六	坂下力以下十一名補充入隊
二〇、十、一二	河南省鄭県黄崗寺に集結と同時に第十独立警備隊独立歩兵第五十一大隊長天野大尉の指揮下に配属せらる
二一、四、二	内地帰還の為河南省鄭県黄崗寺出発　果船地上海に向う　中隊長以下八十一名（将校四名、下士官以下七十七名）
四、七	上海到着
四、一三	上海出帆
四、二〇	博多港上陸
	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

野戦機関砲第八十四中隊略歴

中隊長　坂野　隆

年月日	概要
昭二〇、二、一	軍令陸甲第十八号に基き中華民国河南省禹県に於て野戦機関砲第八十四中隊編成着手
三、一五	編成完結
三、一八	戦車第三師団に配属禹県に駐屯（警備）
五、五	豫鄂作戦に参加
八、八	河南省内郷県内郷に於て第百十師団に配属
八、一四	河南省内郷県西峡口に於て第百十五師団に配属
八、二五	停戦詔書発布
九、二	復員下令
一〇、四	停戦協定締結
二一、四、一〇	河南省鄭州県鄭州に於て第十独立警備隊に配属
四、一六	上海乗船
	博多上陸
	一〇〇名　現役除隊及召集解隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信第十聯隊略歴

陸軍大佐　波木周治

年月日	概要
昭一五、四、七	編成完結
	編成地　山東省歴城泉白鳥山
	行動の概要及其の日時（主力と分離後）
二一、五、一〇	上海乗船
	船名　海防艦第十六号
	海防艦福江
五、一大	鹿児島上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自動車第二十五聯隊略歴

陸軍大佐　成　友　藤　夫

年月日	概要
昭一五、二、六	編成下令 第六兵站自動車隊本部兵站自動車第二百六十二中隊、同第二百七十九中隊 同第三十三中隊、同第六十二中隊、同第八十三中隊、同第八十七中隊を基幹とし部隊本部を山東省済南に置き
三、一五	編成に着手し
三、二八	完結す
	編成の概要 編成は部隊本部一、中隊四、材料廠一　にして将校三二名、准士官、下士官以下七三〇名とす、 装備の主要なるものは各人個人装置を完備し、部隊装置として自動車三二輌（内兼用車、指揮車、側車等二七、貨車二八〇、経修理車四）を有す
自一五、九、一三 一〇、八	行動の概要 部隊の参加せる作戦の主なるもの左の如し （作戦名）　（行動地域）　（参加兵力） 博南作戦　（山東省泰安附近）　第四中隊主力

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自一六、五、一四 至 六、一二	中原会戦（河南省北部）	〃
自 八、二 至 一〇、二〇	晋察冀辺区粛正作戦（河北省北部）	〃
自 九、一五 至 九、三〇	陣西作戦（山東省陣山西方地区）	第三中隊主力　第一、二中隊の一小隊
自 一二、一 至 一三、三〇	第二次魯南動兵作戦（山東省南部）	第二、三、四中隊主力、第一中隊の一小隊
自一七、一、三〇 至 三、一〇	魯中作戦（山東省中南部）	部隊本部　各中隊主力
自 三、二五 至 四、二〇	第二次魯東作戦（山東省東部）	部隊本部　第一、二、四中隊主力
自 一一、一〇 至 一二、二三	第三次魯東作戦（山東省東部）	部隊本部　第一、四中隊主力　第二、三中隊の一小隊
自一八、二、一九 至 三、一三	独立混成第六旅団第二次冬期作戦（山東省中部）	第三中隊主力
自 七、九 至 八、五	十八夏大行作戦（河南省北部）	第四中隊主力

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭一九、三、一五	京漢作戦（河南省） 部隊主力（除才一中隊）
至 六、三一	
自二〇、三、一	豫鄂作戦（河南省南部） 部隊主力（除才三中隊）
至 七、三一	
八、二五	復員下令
	当時部隊主力は豫鄂作戦に引続き河南省方城県下営屯に、一部（才三中隊）、は河南省必陽県鍾慶に夫々位置し、補給輸送を実施しありしが逐次河南省鄭州に集結、帰還待期せり
一一、二〇	自動車才二十三部隊才三中隊陸軍大尉清水卓三以下一三〇名当部隊に転属才五中隊となる。
	復員実施の状況
二一、四、六	乗船地集結の為鄭州を出発
四、一〇	上海到着
四、一五	上海出帆
四、二二	仙崎着
	復員式挙行
五、一	復員完結
	歴代部隊長宮氏名左の如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自一五、三、二八 至一七、一二、一	陸軍中佐	馬場和人
自一二、一 至現在	陸軍大佐	成友藤夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自動車第二十六聯隊略歴

第十四独立警備隊司令官

年月日	概要
昭一五、三、二九	編成完結 聯隊長　陸軍中佐　日野　純（二期） 聯隊は兵站自動車第七十八、七十九、八十、八十一、二百、七十九中隊を基幹とし徐州に於て編成す
自一五、三、二九 至一六、五、七	徐州附近の警備
自　五、八 至　六、一五	中原会戦
自　六、一六 至　七、三	保定附近の警備
自　七、四 至　一〇、三〇	済南附近の警備
自　一一、一 至　一一、二三	第二次魯南（山東省）作戦

2266

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自 一一、二四	済南附近の警備
至 一七、四、二六	
自 四、二七	北二次冀南（山東省）作戦
至 五、六	
自 五、七	済南附近の警備
至 九、一四	
自 九、一五	山東省魯西附近の討伐
至 一〇、一二	
自 一〇、一三	魯中魯南（山東省）作戦
至 一一、一〇	
自 一一、一一	北三次魯東（山東省）作戦
至 一二、三一	
一二、一	聯隊長更迭　陸軍中佐　志波常一（28期）着任
自 一八、一、一	
至 九、一七	済南附近の警備
自 九、一八	魯西（山東省）作戦
至 一〇、二二	
自 一〇、二三	魯中魯北（山東省）作戦
至 一二、三一	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

28 外 北支 6

年月日	概要
自昭一九、一、一 至 四、一九	済南附近の警備
自 四、二〇 至 六、三〇	京漢作戦
自 七、一 至 九、二三	許昌附近の警備
自 九、二四 至 二〇、三、三一	鄭州附近の警備
自 四、一 至 七、三一	豫鄂作戦
自 八、一 至 八、一三	許昌附近の警備
八、一四	停戦詔書発布
八、二五	復員下令
二一、四、二二	内地帰還の為許昌出発
四、二七	上海到着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、五　上海出帆

五、一二　佐世保港上陸

内地帰還府主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

柴橋材料第二十四中隊略歴

陸軍大尉　保山善一郎

年月日	概要
昭一六、七、一〇	動員下令
七、二〇	動員（編成）完結
	動員管理者　第五十二師団長
八、一三	満州派遣の為大阪港出発
八、一七	大連港上陸
八、二〇	関東州界通過
	第三軍司令官の隷下に入る
八、二四	牡丹江省綏陽県綏南着
一〇、三〇	間島省延吉移駐（警備）
一七、四、六	牡丹江省牡丹江市移駐（警備及輸送）
一九、三、四	中華民国河北省天津移駐（輸送及警備）
	第一二軍司令官の隷下に入る
自 四、六	中華民国河南省開封移駐（輸送及警備）
至 四、一八	
六、三〇	河南作戦参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

27 内 北支6

大、一	中華民国河南省洛陽移駐（輸送及警備）
自二〇、三、一七 至 三、一七	豫鄂作戦参加
九、二三	中華民国河南省鄭県鄭州ニ集結
二一、四、四	内地帰還の為河南省鄭州出発
四、七	秦皇島上陸集中完了
四、一三	上海港出航
四、二〇	山口県仙崎上陸
	復員式挙行

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

架橋材料第二十五中隊略歴

陸軍中尉　松井政夫

年月日	概要
昭一六、七、一〇	動員下令
七、二一	動員（編成）完結
	中隊長　陸軍中尉　松井政夫
	動員管理官　第五十二師団長
八、一四	満州派遣の為大阪港出発
	大連港上陸
八、二〇	関東州界通過
	第三軍司令官の隷下に入る
八、二三	牡丹江省綏陽県綏南着
自　八、二三	国境警備
至　一一、一	
一一、一	間島省延吉移駐
一七、四、九	牡丹江省牡丹江市移駐
一九、三、五	中華民国河北省天津移駐
	第十二軍司令官の隷下に入る

29外　北支

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自 四、一八	河南作戦参加
至 六、三〇	
六、二三	中華民国河南省鄭州移駐
自 二〇、三、一	豫鄂作戦参加
至 七、三一	
八、二五	復員下令
二一、四、二	内地帰還の為中華民国河南省鄭州出発　上海に向う
四、一一	上海港出帆
四、一六	博多港上陸
	復員式終了

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

張鼓材料第三十一中隊略歷

陸軍大尉　平野佳秀

年月日	概要
昭一六、七、八	張鼓材料第三十一中隊編成下令
	部隊長　陸軍大尉　野崎元德
七、一九	編成完結　中隊長以下六八〇名
八、一一	関東軍特別演習部隊として満州国に向い仮出発
八、二一	満州国牡丹江省綏陽に到着
一一、二七	綏陽出発
一一、三〇	奉天到着
一二、二七	奉天出発
一二、二九	間島省延吉到着
一七、四、七	延吉出発
四、九	牡丹江省穆稜到着
一九、一二〇	陸軍大尉平野佳秀中隊長として赴任す
二、二	穆稜出発
三、五	山海関通関
三、六	天津到着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、一
大、三〇

京漢作戦に参加し輸送業務に従事す

第一線終戦に至る間中隊は河南省鄭州に駐留し今日に至る

兵力　総員　六八〇名
死亡者　三九名
生死不明者　九名
入院患者　二六名

二一、四、三　鄭州出発
四、一三　上海出帆
四、二一　佐世保上陸
復員式完了

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第七師団第四陸上輸卒隊

年月日	概要
	大正十一年軍令陸乙第三号に基き第七師団第四陸上輸卒隊を新設せらる
	編成の概要
	編成管理官　第七師団長
	編成担任官　歩兵第二十六聯隊長
	編成地　北海道旭川市
昭一二、八、二	編成着手
八、八	編成完結
	編成
	隊長　陸軍大臣配属
	本部　書記一　給与兼炊事掛一　計手一　衛生兵一　伝令一
	第一分隊　分隊長一　四班（一班長　兵二五）
	第二分隊　分隊長一　四班（右同）
	第三分隊　分隊長一　四班（右同）
八、八	編成を完結し北海道旭川市に駐屯す
八、二	隊長　陸軍歩兵少尉　伊藤義次　着任す
八	北支那に派遣を命ぜられ満支国境通過の時を以て支那派遣軍司令官の指揮下

30外　北支6

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

九、一一	に入らしめらる 北支那河北省長辛店に於て野戦鉄道第二聯隊に配属せしめられ京漢線長辛店 ―新鄭間の鉄道敷設作業に従事す
一三、三、	第二師団兵站司令部に配属を命ぜられ徐州站に青島に於て兵站業務に従事す
一一、	第十二軍新設と共に其の隷下に入らしめらる
一五、二、二九	隊長歩兵第二十六聯隊留守隊大隊副官陸軍少尉蛯子英二と交代す
六、	北支那山東省済南に移駐　兵站業務に従事す
一八、七	主力は北支那野戦自動車廠　一部は北支那野戦兵器廠に夫々配属せしめらる
二〇、一一、一八	天津に集結を命ぜらる
二一、一、二六	部隊帰還のため天津出発
	唐沽港出帆
一、三一	佐世保港上陸
	同地に於て復員を完結す
	帰還人員　隊長以下二八四名
	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十八兵站病院略歴

年月日	概要
昭二〇、三、一五	編成完結
	場所　河南省新郷県新郷
	編成担任官　陸軍軍医中佐　栗本博雄
	本病院の前身は新郷陸軍病院にして昭和二十年方軍参編第一一五号（仁集参編第六〇号）編成改正に依り
三、五	第百六十八兵站病院編成下令
	陸軍軍医中佐栗本博雄編成担任官となり編成業務に従事
三、一五	河南省新郷県新郷に在りて編成完結す
	河南作戦に依る入院患者激増し本院病室狹隘せる為新兵舎に分病棟を開設しありたるも爆撃に依り
三、二五	城内同仁会に移転す
	完結当日新郷陸軍病院より引継ぎたる入院患者六〇〇名

編成人員左の如し

区分	兵科	士計	軍医	薬剤	歯科医	衛生	療工	計	摘要
将校		二	三	三	一	二		二九	
准士官下士官	四	一				四一	三	四九	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	兵								計
	二五				二一〇		二三五	療工勤務衛生兵一〇を含む	二九
							三一三		三
					二五三	三			三
				一					一

右の外左の人員引続き勤務す

陸軍看護婦	一四	婦長二を含む
日赤救護班	四三	書記一 婦長三を含む
産婦人	二七	

八、一四 蘭後河南作戦による患者の収療後送に亦新郷市内の衛生防疫業務を継続せり

八、二五 停戦詔書発布せらる

九、一七 復員下令 復員業務に着手す

一〇、二三 終戦に伴い城内同仁会接収せらるるに当り城外同仁会に移転す

二一、三、二四 復員の為河南省新郷県新郷出発（人員 転員四七六名 患者四九一名）

上海に向う輸送中三月二四日一三、三〇陸軍一等兵五十嵐重三郎、三月二六日一二、〇〇陸軍一等兵角田勝一戦病死す。

三、二七 零時四五分 上海北停車場着

入院患者三〇六名 上海第百七十三兵站病院一七九名 上海第百七十五兵站病院二一名、第百五十七兵站病院に転送三名、治癒退院す

蘭後部隊は第百五十兵站病院第二半部に開設し復員業務を続行せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一、四、九	上海港出帆
四、一五	博多上陸
	除隊召集解除せるもの三五九名（残務整理者二名を含む）
四、三〇	福岡県二日市の復員本部に於て復員完結す。

外 北支6

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十九兵站病院略歴

陸軍軍医中佐　永島茂春

年月日	概要
昭二〇、三、五	昭和二十年軍令陸甲第一五号に依り第百六十九兵站病院臨時編成下令
	編成担任官　第十二軍司令官
	編成担任補助官　北支那方面軍第一兵站病院長
	編成地　中華民国河南省鄭州鄭州
三、五	編成完結
	病院長　陸軍軍医中佐　永島茂春
	本部は鄭州に在りて洛陽許昌郾城、南陽方面及頭道部隊の患者の收療並後送勤務に任す
三、三	第二半部を編成南陽及内郷に在りて老家口進攻作戦に参加し一線傷病者の收療及後送業務に任す
五、六	前項第二半部を基幹とする第百六十九兵站病院臨時野戦病院を編成、内郷に於て第二半部の業務を継承せしめ衛生勤務に従事中終に伴い
八、七	閉鎖し
九、三	本部に復帰せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
九、元	北支那防疫給水部鄭州支部現地復員に伴い上村少佐以下人員一〇〇名資材共当隊に編入せらる
一、九	第一二軍復員の為前項人員（上村少佐を除く）は建設港出張所検疫要員として第十二軍司令部に転属せしむ 終戦後依然として鄭州に在りて繁務なる収容並に後送業務に邁進しありしが鄭州連絡所、勤務員として三橋軍医大尉以下三十二名を残置（第十二軍司令部へ転属）し
昭二、四、七	本隊員六〇名及入院患者一四八名全員鄭州出発
五、二	上海到着　上海病院総隊長の指揮下に入り第百五九兵站病院長の区処を受け携行患者の診療を継続しつつ復員準備処理に任ず
五、二	乗船
五、七	博多上陸
	復員
	兵力　総員二四〇名（将校一八名　准士官五八名　兵一六四名）
	入院七名
六、二	残務整理完了
	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百八十六兵站病院略歷

年月日	概要
昭一四、二、四	部隊は中華民国河南省開封市城内元河南省公署戦政廳跡に開設しありたるも百十四師団の二八班野戰予備病院を継承改編し
二、八	開封陸軍病院（三等）を編成、
昭一八、六、一〇	二等病院に編成改正、病院業務統行
昭一九、六、	施設不良狹隘の為開封市城外南関元米国教会跡に移転す
昭二〇、三、	開封陸軍病院を改編
三、二五	第百八十六兵站病院（丙）編成任務統行
八、一五	終戦となり病院の施設一切を中国第一戦区に移譲
昭二一、三、一七	復員の為開封出発
三、三	上海到着
四、九	乘船
四、二五	博多港上陸
	病院長以下　内地除隊　二〇一名
	現地除隊　六二名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百八十九兵站病院略歷

陸軍軍医少佐　浦和　紀

年月日	概要
部隊名	
期間	自昭五、四、八　至昭二〇、三、一四
固有部隊名	北支那方面軍直轄　臨時第二兵站病院
期間	自昭五、四、八　至〃　六、四　自　六、五　至昭二〇、三、一四
通稱部隊号	甲第一四〇〇部隊　林田隊　永井隊
部隊名	自昭二〇、三、五　至昭二、六、三
固有部隊名	第百八十九兵站病院
期間	
通稱部隊号	仁第一四一三部隊
部隊長官氏名	
期間	自昭五、四、八
官等	陸軍軍医大尉
氏名	林田正典

外　北支6

2284

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

至 六四		
自 六五	陸軍軍医少佐	永井東雄
至昭二〇、六三		
自 六三	陸軍軍医少佐	甫和紀
至昭三、六三		

昭九、四、八　北支那方面軍作命に據り第一軍太原陸軍病院編成担任部隊となり北京陸軍病院附林田軍医大尉を長とし北支那方面軍直轄臨時第二兵站病院の編成を完結す。

四、一　部隊は京漢作戦参加目的を以て太原市出発

四、六　黄河南省喬廟に到着

同地に於て待機す。

四、一五　部隊は平野軍医中尉を長として河南省中牟に患者療養所を開設の目的を以て忠義出発

四、一九　中牟着療養所を開設す

四、二五　部隊主力は喬廟出発

黄河渡河鄭州西方耿庄に進駐同地に待機す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一九、四、三〇	部隊は福島軍医中尉を長とし河南省洛陽に患者療養所を開設す
四、六	平野軍医中尉は中牟患者療養所を閉鎖し本隊に復帰す
五、一	部隊主力は河南省新鄭に進駐
五、二	同地に於て病院を開設す
五、三	福島軍医中尉は洛陽患者療養所を閉鎖
	師団に進駐
	同地に療養所を開設す
	部隊は主力を二分し第一半部は林田軍医大尉長となり洛陽東方白馬寺進駐
	同地に病院を開設す
	第二半部は本田軍医大尉を長として引続き新鄭に於て病院業務を続行す
五、三	第一半部の白馬寺進駐に伴い福島軍医中尉は師団患者療養所を閉鎖
	第一半部に復帰の目的を以て白馬寺に進駐
	林田軍医大尉の指揮下に入る
六、二	第二半部は平野軍医中尉を長とし患者輸送隊を編成洛陽地区衛生機関（第百四十兵站病院第一兵站病院）の収容患者の後送に任ず
	方軍工作命丙第一七五号に依り北京、右門陽泉新鄭各陸軍病院より夫々給療業務援助の目的を以て衛生部員を増派せらる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六、六	部隊は第一半部及第二半部を合せ河南省許昌縣許昌に兵站病院開設の目的を以て第二半部より先発隊を派し設置に当ぜしむ
六、三	第一半部は患者輸送班の復帰を待ち第二半部は六月二十三日夫々病院を閉鎖し許昌に進駐同地西関村元米系病院跡に病院を開設
	既に同地に於て開設しありたる第一四〇兵站病院許昌患者療養所の收容患者を転入收容し爾后鄭州、襄城方面及在許昌並に通過部隊の患者の收療後送に任ぜり
六、六	病院は河南省鄭州に患者療養所開設を命ぜられ平野軍医大尉を長とし鄭州縣漯河鎮に進駐せしめ療養所を開設し同地駐留部隊及碓山並中支方面よりの後送患者の收療後送に任ぜり
九、四	現病院長林田軍医大尉は原所属に復帰を命ぜらる
九、九	新病院長永井軍医少佐到着す
昭一〇、二、一	軍令陸甲第一八号に依り三月五日編成改正着手
	第十二軍第二兵站病院の臨時編成を命ぜられ
三、四	第五九師団野戦病院を主体とし編成完結
	同日より徐州作戦参加のため南陽方面に進駐せしめ当面の衛生業務を担当せしむ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
三、一五	病院は編成改正完結す
	方面軍直轄第二兵站病院を解隊しその主力を以て第一八九兵站病院を編成
	新に第十二軍の隷下に入り引続き許昌並に鄭州に於て病院業務を統行す
三、二〇	病院は収容力拡張の目的を以て更に許昌城内覇陵中学校跡に分病室を設置収療に任ぜしむ
	在支米空軍の行動遂次活発となるや突発的戦傷患者続出し病院業務の繁雑を極めたり依つて病院は特別治療班を設置しその収療に万全を期す
六、三	永井軍医少佐は第十二軍々医部附に補せら
七、九	後任病院長として用封陸軍病院より浦和軍医少佐着任す
六、五	第十二軍第二兵站病院の任務終了
	遂次許昌に復帰
七、四	残務整理完了と共に解隊し夫々原所属に復帰せしむ
八、五	復員下令
八、九	終戦に伴い解隊せる北支那防疫給水部鄭州支部郭城出張所瀬戸軍医大尉以下二十四名を編入せしめらる
九、八	病院は転進を予想し覇陵分病室を閉鎖す
九、三	終戦に伴い前線衛生機関及中支方面より後送患者多数収容を予想し収容力拡

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

張の目的を以て再び霸陵分病室を設置す

九、五　許昌本院の收容患者劇増せるを以て鄭城患者療養所は之を閉鎖し本院に復帰せしむ

九、六　病院は主力増强の目的を以て再び分病室を閉鎖し本院に復帰せしむ

病院は終戦後引続き河南省許昌縣西関村に位置し病院業務を続行す

昭三、一、一五　中国側より監督官（病院長）を派遣病院を接收管理す（軍政部開封区第一臨時医院）

四、九　内地帰還のため輸送開始するに当り連絡の為田村軍医中尉以下二名を上海第十二軍司令部出張所に派遣す

四、一〇　病院は鄭州第一六八兵站病院收容患者の上海後送の護送員差出を命ぜられ黒田軍医大尉以下三十四名を派遣し該病院長の区処を受けしむ

四、九　中国側の接收開始せらる

四、一〇　衛生材料、経理物品、糧秣被服及び兵器等全般に亘り接收を終了す

病院は現有患者を收容の儘内地帰還の目的を以て許昌を出発す

四、二八　輸送業務は順調に進捗し除州京漢田に依り上海に到着

高境廟站着

本隊並に收容患者五十九名は上海第七一三兵站病院に宿泊

一部復員事務関係者は第十二軍上海出張所内（第十三軍司令部）に於て事務

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	整理を開始す
昭三一、四、三〇	許昌に駐留時患者護送員として鄭州第一六九兵站病院に先発せしめたる黒田軍医大尉以下三四名は患者二二〇名を護送し午前六時上海北站に到着
	直に上海第一七五站病院に宿営す
	本隊及黒田隊共護送せる患者診察を依然続行す
五、六	本田軍医大尉は転員一三二名並に患者一三三名を指揮し内地帰還の目的を以て書類検査を終了
五、七	上海市政府に前進隊属及び個人携行物件検査を終了す
五、八	上海港出帆　佐世保に向う
	本隊は第三十六次患者護送を編成
	第三十三次患者護送隊と共にVH〇〇三号に乗船
五、一二	佐世保に向い上海港出帆す
五、一三	本隊は佐世保港に入港せるも「コレラ」及腹痛各一名を発生（第三十三次護送患者）せしめたるを以て同港外に停泊せらる
六、二	隔離を解除
	上陸旧針尾海兵団に宿営す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3 内 北ち6

六三、
七、六

部隊は業務整理要員を残置し夫々除隊す
中百八十九兵病院は復員を完結す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp